

2014年度（H26）総会報告

（事務局：広塚）

2013年度及び2014年度（事務局）活動報告と方針

2013年は、日本野鳥の会筑豊：ボランティア自然保護団体として、多くの会員の知恵と協働による運営方式により探鳥会やバスツアー等の行事、毎月の会報発行、当会サイト「くまたか」の運営全般が良好に行われたことお礼申し上げます。

事務局としては、各専門部と企画を含めた調整役として関わってきました。各専門部の総括と方針は、各部長より別紙に述べられていますので評価や意見は割愛します。

事務局の総括と方針は、勝手ながら一体提起とさせていただきます。その他、承認案件と必要な報告項目について何点か合わせて報告致しますので、ご審議願います。

1、会員動静

過去の会員状況は、2005年頃から右肩下がりとなり2007年に218人へ会員減少が続き、200人を割る危機的状況が発生しました。なんとかせねばと、当会行事報告や当会サイトなどからの情報を基に「ふり返り検証」を繰り返しながら反省と対応策を練ってきました。

それぞれの行事实施は、企画準備からお世話など大変ですが、野鳥の会の紹介機会やフィールドでの観察会を多く実施することにより、昨年は新入会員22名をお迎えして、2013年12月2日現在会員：249人（支部ネット通信を参照）となっています。一方、退会者は19名にも昇り高年齢化の組織実態は変わっていません。

（注）：2012年12月1日：246名

2014年は、探鳥会行事などに友人知人をお誘いして、探鳥会行事等をご一緒に愉しみながら入会の働きかけを地道に進め新しい会員をお迎えしましょう。

一方、事情により当会行事に参加でない会員の皆さんには、会員の継続により財政支援や自然保護団体の側面支援の大きな支えになっている事を理解して頂き会員継続をお願い致します。

2、運営委員会

昨年は、毎月の平日と日曜運営委員会の2日間方式から平日運営委員会の1回に統合した方式を「試行実施」しました。工程と内容は、10時30分から会報印刷し、13時から丁合・発送に続いて運営委員会です。運営委員会への参加協力については、探鳥会など機会ある毎に、年1回でも当会事務所に気が向いたときだけでも気軽に足を運んで頂けるようお願いしています。結果、役員だけでなく一般会員の参加もあり効率的な発行作業と運営委員会となったこと感謝致します。

なお、

新年は、平日運営委委員会の「試行実施」に意見を求めたところ、特段な問題なしと判断され、「本格実施」へ移行致します。

3、恒例の写真展について、

別添の野村芳宏氏提案の「野鳥展実行委員会」で実施すること承認頂きたい。

なお、本案は、運営委員会及び写真展出展者との意見交換を経て了解を頂いています。

4、新役員体制について

（1）本年の役員体制は、別添のとおり提案致します。

新体制は、
前年の全役員は継続とし、新たに野村芳宏（事務局次長）、早川佳宏（普及部副部長）、柴田光（研究部副部長）を提案致します。

なお、
保護部については、後藤部長の要望により正副部長を交替して、筒井哲史（部長）、後藤文嗣氏（副部長）と致します。

（2）派遣役員

- ①：県鳥獣保護員：後藤文嗣、木村直喜（本年4月より）
- ②：県環境保全指導員：広塚忠夫（本年4月より）
- ③：遠賀川モニター：筒井哲史
- ④：飯塚環境会議：後藤ようこ

5、自主企画及びミニ自然観察会、ミニ探鳥会の実施の奨励について

昨年はミニ自然観察会が11回、ミニ探鳥会が2回開催されました。担当は個人負担に偏らないように多くの方に分担して頂き、フィールドでの案内や識別の指導は、役員や高レベルの方と協働して行いました。原則、新年もこの方式で行いますので、大船に乗ったつもりで、奮って「担当」に手を挙げて頂ければ助かります。また、ご指名の場合は協力方よろしくお願い致します。

（参考）、自主企画に対しての開催条件と当会筑豊の支援について下記に記載します。

- （1）自主企画者は、会報「野鳥だより・筑豊」又は、サイト「くまたか」に行事内容を投稿して、結果報告を行う。
- （2）安全第一
行事開催に当たり安全に対する注意喚起を行う。
- （3）その他
行事の参加者名簿の作成と参加費の100円は徴収する。

（参考）；当会筑豊は本部の標準保険にプラスして追加プランに加入しています。

（注）：（1）～（3）は、事故発生時に、探鳥会保険の適用の必須条件です。

（4）開催条件と当会筑豊の支援

- ①環境保全（ローインパクト）：野草採取の禁止及びポイ捨て厳禁などの徹底周知
- ②野鳥生態などに悪影響を及ぼす様な行為、撮影、写真展示は行わない
- ③本会の備品（ノートPC・プロジェクター・写真額・CD・各種資料）の貸出
- ④会報（野鳥だより・筑豊）及びサイト「くまたか」などによる広報
- ⑤その他の支援は、本会の力量を考慮して自主企画者と相談して決定

（5）その他

小学校などの学校関係の観察会は、安全管理の視点から主催は学校にお願いして、当会会員が探鳥会指導を分担する。

（昨年実施）：八木山小学校、山口小学校、福智高校

6、バスツアーについて

昨年2回のバスツアーが行われました。

初回の出雲・宍道湖一泊ツアーは40周年記念事業として、2回目の出水のツル観察ツアーは団体支援助成事業を活用しました。

今年も、梶原剛二会長から団体支援助成事業の活用案を期待しています。

なお、

バスツアー経費は、基本的に参加費で賄い、極力、当会からの支出は避けることにします。

但し、節目の記念行事の場合は、事前に運営委員会で確認して補填と致します。

7、探鳥会リーダー研修会の開催（案）

- (1) 日程：ヨルヒコ（5月下旬）の昼間に研修会、翌朝に探鳥会
- (2) 講師：安西英明主席研究員（本部）
- (3) 講師費用：最低見積：7万（交通費：5万、謝礼・宿泊費：2万）
- (4) 福岡県英彦山青年の家：一泊二食：1260円（2014.1.18：現在）
- (5) 県内の野鳥の会との共催の検討
- (6) 総会の意向を踏まえて、運営委員会で再検証